

感染症情報 3月28日～4月3日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1618例（堺市 57例）
②溶連菌感染症	301例（堺市 13例）
③おたふくかぜ	173例（堺市 4例）
④突発性発疹	80例（堺市 3例）
⑤みずぼうそう	64例（堺市 1例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 2216例（堺市 186例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から32%増加し、順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは定点当たり7.2（堺市6.6）と7週連続して減少して注意報レベルの10を下回わり、ピークの5分の1以下となった。春休み中なので、今後更に減少すると思われるが、新学期が始まる頃まで流行が残ると、再燃する可能性も否定できない。

はしかの報告はなく、風疹は1例の報告があった。